

## 第三節 「孝」について

中国健康コンサルタント

邱 淑 惠

### はじめに

邱です。今回は「孝」について、「親孝行」についてお話したいと思います。

主人がそばにいと面倒くさいですよ。いつもこれやれ、あれやれと言って、マイクこういふうにしないと言つて、いつも家にいと私が小さくなつています（笑）。

孝の概念、理念は中国文化の基本の一つです。論語の中でも大切にされて、道德の源になつています。

それは次の中国の言葉、「百善孝為先」でわかります。これは「善のすべてはまず孝にある」ということです。親孝行さえできない人は、他人のために人のために社会のために国のために何か良いことは絶対できないと思われているのです。親孝行できない人は信用できないと昔の中国人はそう思っているのです。

そして、「孝」という文字を分解してみると分かるんですが、これは子供が「老」を、年老いた人を支えているという意味なのです。子供は年取ったお父さんお母さんを大切にするという意味なのです。

みなさんお父さんお母さんを大切にしていますか？ 私は、今日みなさんに親を大切にしなければいけないという私の思いをお話します。

### 一 『二十四孝』について

私が小さいときよく親孝行の物語を聞かされました。それは、元の時代の郭敬居かくけいさんが書いた『二十四孝』というものです。

これは親孝行に関する二四の物語です。今日お話するのは、この中に孔子の弟子に関する三つの話が載っているからです。

まず曾子さんの『啗指痛ナツツトシシ心』です。

曾子さんは孔子の弟子で、そしてとても親孝行な方でした。『孝経』を書いた人です。中国では有名です。小さい頃お父さんが亡くなってから、お母さんと一緒に生活していました。

曾子さんは、山の中に入って木材を集めて売ったお金で生活していたんですが、ある日に、曾子さんがいないときに、親戚の人が家に遊びに来ました。

曾子さんのうちは貧乏ですから、食べるものもないからお母さんはおもてなしできないために、どうしようかと困っていました。

困ったお母さんは、曾子、早く帰ってきて、早く帰ってきて」と強く念じたのです。そして、思わず自分の指を噛んだのです。お母さんが痛い」といつと、その思いが電流が流れたように曾子さんに通じたのですね。

「あっ、お母さんが困っている、早く帰ろう、何かあっては困る」と感じた曾子さんは急いで、木材を束ねて山を下りたのです。

家に帰り、困り果てたお母さんの姿を見た曾子さんは、早くこの木材を売りに行って得たお金でたくさん食べ物を買って来ました。そして、お客さんをもてなし、お母さんを安心させたのです。

すごい親思いだから、親が何か困っているときは孝行息子に「ピピ」と伝わるのです。これは以心伝心の話です。

私の息子が小さい時、一緒に主人の田舎に帰りました。

私に針をやってもらおうと親戚がいっぱい集まります。まだ針灸の免許を取っていませんでしたので、タダですからね。主人は、免許ないからお金はもらってはいけないとうるさく言つので、お金の代わりに、親戚の人はイチゴやおいしいものを持ってくるのです。

ところが、私が一生懸命に針治療をしているときに、主人の家族は、裏のところでイチゴを食べて

いるのです。私は食べたけれど食べられない、そういうときに息子が、「みなさん、待って、まだママが食べてないでしょ、のこしてあげないと、これはみんながママのために持つてきてくれたものでしょ」と言ってくれたのです。

その息子も結婚して三十歳になりましたが、結婚してみると、「うちの嫁は、この頃おいしいもの食べていないから、何処か連れて行ってくれよ、食べさせてくれよ」と、よく言ってくるんです。子供が結婚して余裕ない時はしてもよいけど、親が年取ったら親を大切にしてほしいと思います。

次は、びんしけん閔子騫の『タンイヌム単衣順母』です。

閔子騫は、幼いうちにお母さんを亡くして、継母にいじめられたのです。継母が腹違いの二人の息子をもうけて、とつてもかわいがっているのです。差別するのです。

ある冬お父さんが、継母に対して、寒い冬をしのごうために、「三人の子供に暖かい服を作つてあげなさい」と言つて、お金を渡したのです。継母は、自分の二人の子供には綿のたくさん入った着物を着させていたのですが、先妻の子である閔子騫はかわいくないので、綿の入っていない薄い着物しか与えなかつたんです。

お父さんには、見た目からはわからないのです。

ある寒い日、閔子騫は毎日お父さんの馬車に乗つて出掛けたのですが、あまりに寒くて身体が冷え切つた閔子騫さんは突然、馬車から倒れたのです。

その時、着物が引つ掛かつて少し破れ、その中から、綿じゃなくて薄い生地が出てきました。それを見たお父さんは、「こんな薄つべらな生地じゃあ寒くて耐えられない、これは何の事だ、お金を渡したの」と言つて、急いで家に帰りました。ほかの二人の子供の洋服をやぶつてみたら、たくさん綿が入っていたのです。

お父さんは怒つて、離縁だと言つたのです。

すると、閔子騫さんが、「お父さんお願いだから離縁しないでください。お母さんと離縁したら、三人の子供が寒い思いをします。今寒い思いをするのは私一人でもいいから」と言つて、お父さんを諫めたんです。

この言葉を聞いて、継母は、ああ、わたしが悪かつたのだな」と心を入れ替え、閔子騫さんを大切にしました。

続いて子路さんの『フイミヤンチン負米養親』です。お米を背負つて親孝行する話です。

子路さんはもともと性格が荒くて、少し凶暴ですが、とつても親孝行の子供です。だから孔子さんも弟子にしたのです。

子路は、小さい時に戦争にあつて食べ物が少なくて野菜ばかり。小さいながらに、お父さんお母さんにおなかいっぱい食べてもらいたいと思つても、小さいから働けない、雇ってもらえないのです。そこで考えた末に、一〇〇里離れたところに着つてお金持ちのおばあちゃんがあるので、お米を

もらえないかなと思って行ったのです。

六歳になっていない頃です。

子路さんは、お米をもらって背負ってきて、お父さんお母さんに食べさせたのです。少しでも多く親に食べてもらいたいので自分は食べません。

それも一日だけでなく、何回も何回も、繰り返し繰り返し、一里の道を行ってお米をもらって食べさせたのです。とても親孝行な話です。

## 二 「孝」についての孔子の考え

次は、論語に書かれている「孝」についての孔子の考えです。

「孟懿子（もういし）、孝を問う。子曰く、違（たが）うことなかれと。樊遲（はんち）（御（ぎよ）たり。子これに告げて曰く、孟孫、孝を我に問う。我对えて曰く、違（たが）うことなかれと。樊遲曰く、何の謂（い）い（ぞやと。子曰く、生にはこれに事（つか）（うるに礼を以ってし、死にはこれを葬むるに礼を以ってし、これを祭るに礼を以ってすと）」（為政篇）

これは孟懿子（もういし）さんの話です。孟懿子（もういし）さんは魯の御三家の一つである孟家の当主でお金持ちで、次に

説明する孟武伯ぶくさんのお父さんです。孟懿子さんは親の命日に祭りを準備している最中に、孔子に親孝行の心がけを尋ねられた。

すると孔子さんは「違えないようにすることだよ」と答えたんですが、本当に理解しているかどうか心配だったので、念のため一緒に来た御車役の弟子の樊遲はんちさんに「孟懿子さんが私に親孝行について質問してきたから、『違えないようにすることだよ』と答えたんだが……」と確認したんですね。それに樊遲さんは、「それはどういう意味ですか」と聞いてきた。

すると孔子さんは「親が生きている時は礼にそぐわないようにしちゃいけない。死んでからも礼に沿って葬らないといけない。礼に沿って供養しなければいけない」と答えたそうです。

親に接するときは生きているときも死んでいるときも常に礼をもって接しなければいけないと言ったのです。

論語の中では、「孝」と「礼」と「仁」を大切にしています。

「孟武伯、孝を問う。子曰わく、父母にはただその疾をこれ憂うと」（為政篇）

孟武伯さんは孟懿子さんの子供で、生まれた環境がいいものですからわがままに育ちました。気性はすこく粗く、よくケンカしたり、お酒飲んだり女遊びしたり、不摂生だったのです。不摂生すると

健康に影響を与えて病気がちになるのです。

この孟武伯さんの「孝」の質問に、次のように答えたのです。

両親は、子供の病気とけがを一番心配するので、身体を大切にして心配させないようにしなさいと。よくケンカするので、親にはせいせい病気のことだけで他のことを心配させないようにしなさいと諫めたのです。

「子游、孝を問う。子曰く、今の孝は、これを能く養うをいう。犬馬に至るまで、皆能く養うことあり。敬せずんば何を以て別たんやと」(為政篇)

子游しゆうさんは性格がすこし無礼な人でした。

親に対しても礼儀がなかったので、孔子さんは、「親を養う時は、ちゃんと尊敬の気持ちを持ちながら接しなさい。尊敬の気持ちがないと、ただ単に犬とか馬を養っているのと同じになってしまますよ」と言っているのです。

礼を持って親に接するべきということなのです。

「子夏、孝を問う。子曰く、色難(いろがた)し。事あるときは弟子その労に服し、酒食(しゆく)あるときは先生に饌(せん)す。かつてこれを以て孝と為(ため)すかと」(為政篇)

子夏しかさんも怒りっぽい性格なのです。

孔子さんは、穏やかな表情で親に接しなさい。力仕事を親に代わってやったり、お酒とか食べ物を与えるだけじゃなくて、まごころを持って接することは『孝』である」と言っているのです。

このように孔子さんは、それぞれの弟子の性格をよく知っているのですね。それぞれの性格に合うように忠告しているわけです。ここは孔子さんの一番素晴らしいところですよ。

「子曰く、父母在（いま）さば遠く遊ばず。遊ばば必ず方（ほう）ありと」（里仁篇）

これは私が一番していません。こんな遠いところ（台湾から日本）に嫁いできましたから、いつも親のそばにいないので、親孝行していません。

これは、「年老いた親が健在の時は、あまり旅行に行かないように、あまり遠くに出かけないようにしたほうがいい」ということですね。

だから、もし仕事などでどうしても遠くへ出かけねばならない時は、ちゃんと連絡先を教えて安心させてから出かけるようにすることが大切だということです。

私はやっと携帯電話を持つようになりました。それまでは、例えば、主人が帰宅したときに娘がまだ帰ってきていないときは、主人は娘と同じ会社の携帯電話を持っているので、主人に、早く連絡し

てよ」と言うのです。

すると主人は電話を入れて、「あなたどこにいるの。お母さんが心配しているから、早く帰ってきなさい」って電話しますね。

だから、娘の友達の間では、すごくうるさい親と有名なのです。

先ほど、突然、慶應で娘の大学の研究室の先生に会ったのです。「先生、いつも娘がいつも遅く帰るので文句ばかり言って迷惑かけています」と言っていたのです。

皆さんも、親というのは、子供がどこにいて何歳になってもいつになっても心配するものですから安心させてください。時々電話をかけて、今元気ですよと安心させるといいですね。

私も時々電話します。父親はもう九七歳ですから、頭が少しずつボケて来っていますが。

「子曰く、父母の年は知らざるべからざるなり。一はすなわち以って喜び、一はすなわち以って懼（おそ）ると」（里仁篇）

これは、両親の年齢は、ちゃんと知っておくべきですよ」ということです。中国では、こんなに長生きしたらありがたいねと感謝の気持ちをもつのです。人間はいつか必ずあの世に行きます。親も同じです。いつかなくなるのか、少しずつ時間が短くなってきたと心配になります。

わたしも九七歳の親がいますから、夜電話がかかってくるのが怖いです。夜の電話が来ると、父に

何かあったのかと心配するのです。

親が長生きするのはうれしいですが、反面恐ろしいです。いつお迎えが来るのかわからないので心配なのです。

だから、ときどき電話して喜ばせてあげてください。

「子曰く、父在（いま）さばその志を觀（み）、父没せばその行いを觀る。三年父の道を改むるなきは、孝というべし」と（学而篇）

親のやり方に対して子供はよく反発しますね。うちの娘もそうで、いつも私たちに文句を言いますが、自分のことは一切いいません。

でも、親が生きている時は、親のなすことは、慎みながら観察し、正しいのであれば親の言うように行動しなければいけませんよ」ということです。

そして、どうしても親のやり方に納得できないなら、親が亡くなってから三年かけて徐々に自分が正しいと思うやり方に変えていきなさい」ということです。親に思いやりの心をもって、親のやり方を尊重しなさいという意味です。

なんで三年なのか。それは、人間だけが、生まれてすぐには歩けず、親が手で懐に抱きかかえて、概ね三年も世話してくれるのです。

つまり、「親は子供が三歳になるまで大変な苦勞をする。だから親が死んでから三年間は親の教えを守りなさい」ということなのです。

母が亡くなった時、私の兄は社長だったのですが、一年間ひげをそらなかつたのです。母親を思つ一つの表れなのですが、私は悲しいだけで何もしませんでした。

「子曰く、孝なる哉（かな）閔子騫（びんしけん）。人その父母昆弟（こんてい）の言を聞（か）ん（せずと）（先進篇）

これは、閔子騫さんのお話をした時に説明しましたね。継母にいじめられました、親孝行で継母にも認められました。

閔子騫さんは本当に親孝行もので、親兄弟が彼をいくら褒めていても誰一人非難しない、信じないともいわない、依怙（えこ）鼻肩（びしき）なんて絶対いわないのです。

「子曰く、父母に事（つか）えては幾諫（きけん）す。志の従わざるを見ては、また敬（けい）して違（たが）わず。勞して怨みずと」（里仁篇）

「年を老いた親が、あまりに間違つたことをすれば穏やかに注意してもいいが、その注意を聞いて

くれない時でも、親をけなしたりせず、恨まないことです。親は親ですから大事にしなさいということです。

以上が、孔子さんが弟子に語った「孝」についての話です。

### おわりに

私がこの原稿を用意していたとき、台湾の姪っ子からちょうどメールがきました。「写真を送ったよ、見てよ」というのです。

娘に頼んで写真を開いてもらって見たら、涙が出てきました。父親の写真でした。

父親は九七歳です。後ろ姿の写真で見る真っ白の頭、背中が丸くなって、前より毛年を取ったのです。「あとどれくらい生きられるか」「あと何回会えるか」「好物の甘いものを何回買って食べさせられるか」などと、考えると涙が止まらないのです。

親はありがたいものです。自分のお父さんお母さんをお願いしますと言えば必ず一所懸命かなえようと努めてくれます。親というのはそういうものです。自分も親になれば必ずわかります。

最後に、「樹欲静而風不止」、「子欲養而親不待」という言葉を紹介します。

子路さんが話した言葉と言われています。

「親孝行をしようと思いついた時には、既に親が死んでいて、孝行ができない」ということですね。皆さん、親が元気な間に一所懸命に親孝行をしましょう。どうも有難うございました。

【第三四回、平成二〇年一月二六日】